

地域別カルテと地域別計画における方向性

1. グリーンインフラ地域別カルテについて

グリーンインフラ地域別カルテは、グリーンインフラの機能別評価や市民アンケート調査の結果を踏まえ地域ごとのみどりの課題を整理し、各地域において重点的に取り組む内容を検討するものです。

本資料では、各地域の主要課題を整理し、地域別計画における各地域の取り組みの方向性を検討しています。

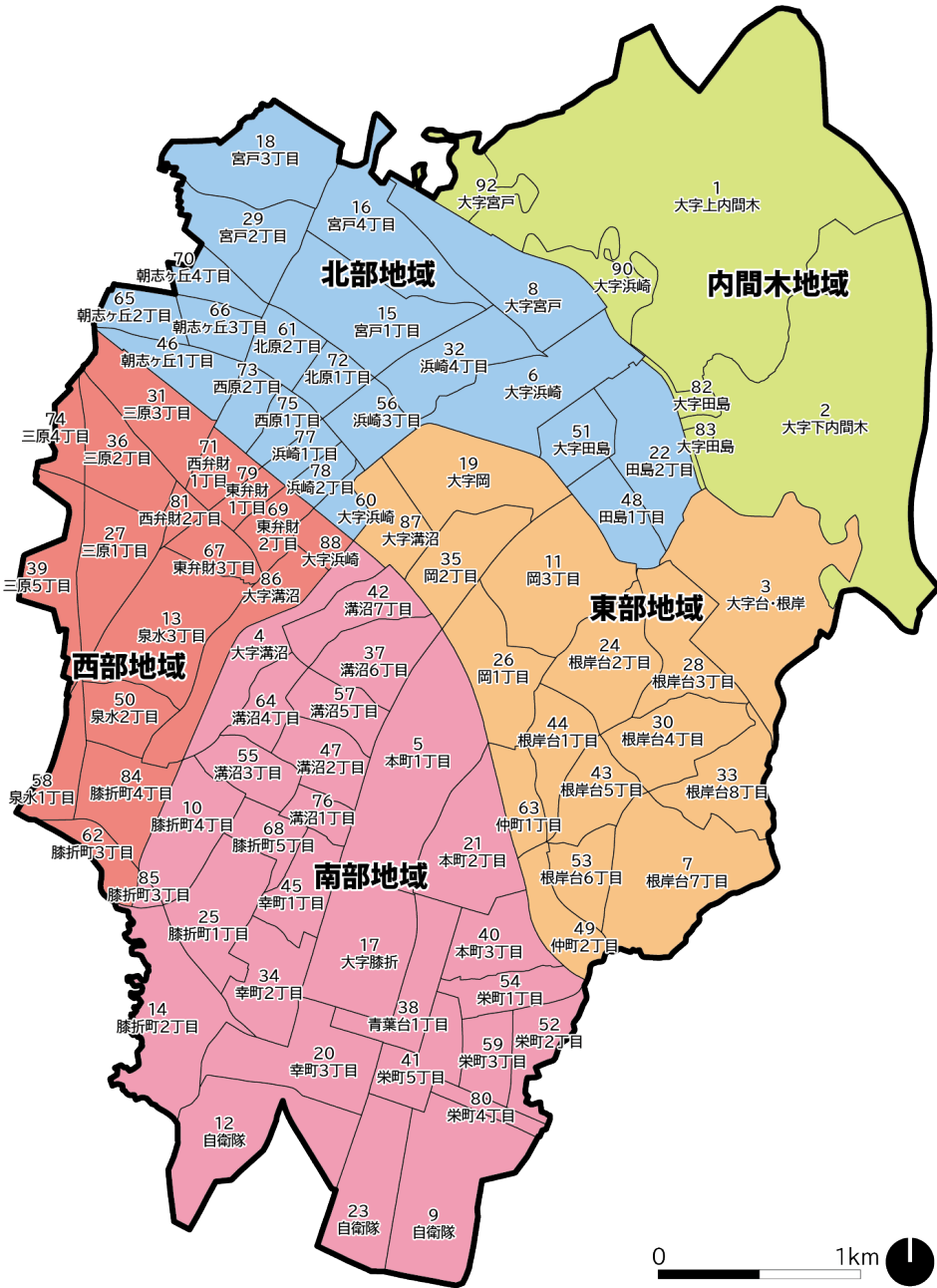


図 地域別計画の地域割り

※字名の番号は分析のための ID 番号です。

※1：字別人口（令和 7 年 1 月 1 日）に基づき計算している。地域界をまたぐ字は面積案分している。
※2：総額 1000 円を持っていると仮定し、回答欄に示す機能を有するみどりについて、大事なものに多く、それほど大事ではないものに少なく配分し、合計 1000 円となるように購入する仮定の支払い額に関する設問
※：「昨年度からの修正内容」としては、公園等を含む分析において、本市に近い他市の公園等を反映しました。
※「避難地や防災拠点となるみどり」の分析では、非水害時と水害時の2通りの分析を行いました。また避難有効面積には防災協力農地（青葉台市民農園）を加えました。

2. カルテ構成

グリーンインフラ地域別カルテは、以下の構成で作成しています。

表 1 グリーンインフラ地域別カルテの構成

地域名	面積	人口※1	みどり率	緑地率
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 問 3 将来に残していきたいと思うみどり 問 5 近くの公園についての評価 問 7 緑化活動等への参加経験	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり 問 4 公園利用頻度 問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 問 10 みどりを守るための仮定の支払額※ 2		
グリーンインフラの現況特性	分析指標（町丁目別） （各指標の内容は「表 2」に記載）			主要課題の整理
	グリーンインフラの効用別の現況特性の記述			市民アンケート調査やグリーンインフラの現況特性を踏まえ当該地域における優先的な課題を抽出

表 2 グリーンインフラの分析指標の構成

GI の効用の指標	評価指標	内容	町丁目別の値
健全な水循環を支えるみどり	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面浸透量	地表面浸透量の平均
	雨水の地表面排水量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面排水量	地表面排水量の平均
都市の気温上昇を抑えるみどり	地表面温度 (℃)	GI タイプの分布とランドサット衛星観測データより作成した輝度温度との回帰分析による推測地表面温度	推測地表面温度の平均
地球温暖化防止に貢献するみどり	炭素固定量 (トン/ha/年)	GI タイプにおける純生産量の算定を介した年間の炭素固定量の算定	炭素固定量の平均
生き物の生息空間となるみどり	生物指標の多様度 (%)	34 の生物指標を分母とした GI タイプで生息が想定される生物指標の数の割合	生物指標の多様度の平均
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり	豊か・魅力的と感じるみどりの回答数(件)	市民アンケート調査において抽出された豊か・魅力的と感じるみどりの回答数	回答数の平均
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	農業活動空間面積率 (%)	耕作地及び休耕地の 50%の面積を評価単位空間面積で除したもの	面積率の平均
健康づくりの場となるみどり	散策路・歩道の長さ (m/ha)	公園緑地等の遊歩道と道路の歩道の長さ	1ha あたりの散策路・歩道の長さの平均
身近な遊び場となるみどり	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	半径 500m以内の人口に近隣住区モデルの住区基幹公園標準面積(4ha)を乗じた必要面積に対する現況の都市公園等の過不足面積	過不足面積の平均
にぎわいや交流の場となるみどり	イベント開催に供するオープンスペース面積 (㎡/人)	評価地点から 500 m以内における 1000 ㎡以上の都市公園やイベント開催に供するオープンスペースの一人あたりの面積	面積の平均
避難地や防災拠点となるみどり	非水害時における避難有効面積 (㎡/人)	評価地点から 500m以内における学校や 1000 ㎡以上の都市公園等における一人あたりの避難有効面積	避難有効面積の平均
	水害時における避難有効面積 (㎡/人)	評価地点から 500m以内における学校や 1000 ㎡以上の都市公園等における一人あたりの避難有効面積	避難有効面積の平均

内間木地域			面 積			人 口			みどり率			緑地率				
			3.7km ²			1,309人			64.7%			(作成中)				
市民アンケート調査	問 1	みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの 豊かさや魅力に満足している		0.36 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	d.お住いの近くの公園 に満足している		0.04 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	g.災害時に避難地や活動拠点 として機能する公園がある		0.04 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	h.公共空間のみどりや民有地のみどりによ って良いまちの景観がつくられている		0.00 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		
	問 2	豊か・魅力的と感じるみどり (回答対象とその件数)	新河岸川（22 件）、荒川（5 件）、秋ヶ瀬（2 件）				問 3 将来に残していきたいと思うみどり (回答対象とその件数)		新河岸川（6 件）、荒川（3 件）、秋ヶ瀬（1 件）				問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)		13.5 回 (市全体 30.9 回)	
	問 5	近くの公園についての評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充 実している		0.22 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	b.安全に遊べる遊具が充実し ている		-0.06 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		c.公園の植物がよい景観をつ くっている		0.11 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		h.近くの住民によく 利用されている		-0.06 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)
	問 6	みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	1 位	だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる（34.4%）						2 位	健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる（21.9%）					
			3 位	道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する（12.5%）						4 位	民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する（6.3%）、公園や河川、農地を活用したイベントを充実させる（6.3%）、まちづくりへの参加やイベントなどの情報発信を充実させる（6.3%）					
	問 7	緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	1 位	生け垣や花壇など自宅の庭の緑化（28.6%）						1 位	全てに参加したことがない（28.6%）					
		3 位	道路などの清掃活動（23.8%）						4 位	市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産（9.5%）						
問 10	みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	1 位	こどもの遊び場や散策の場となるみどり（¥310）						2 位	CO2 の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり（¥215）						
		3 位	日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり（¥135）						4 位	まちの美観、表土の風景を形成するみどり（¥70）						

地域	町丁目	雨水の 地表面浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (℃)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の 多様度 (%)	豊か・魅力と感 じるみどりの 回答数 (件)	農業活動空間 面積率 (%)	散策路・歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面積に 対する現況公園 の過不足面積 (ha)	イベント開催に供 するオープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時におけ る一人あたりの 避難有効面積 (㎡/人)	水害時における 一人あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	主要課題の整理	

北部地域		面 積				人 口				みどり率				緑地率											
		3.4km ²				30,979 人				31.3%				(作成中)											
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している				-0.02 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		d.お住いの近くの公園に満足している		-0.12 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある		-0.18 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		h.公共空間のみどりや民有地のみどりによって良いまちの景観がつくられている		-0.02 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)							
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり (回答対象とその件数)	黒目川（331 件）、新河岸川（22 件）、わくわくドーム（9 件）、田島緑地（9 件）、北割公園（3 件）、北朝霞公園（2 件）						問 3 将来に残していきたいと思うみどり (回答対象とその件数)				黒目川（154 件）、新河岸川（6 件）、わくわくドーム（2 件）、田島緑地（2 件）、北割公園（2 件）、北朝霞公園（2 件）				問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)		29.3 回 (市全体 30.9 回)							
	問 5 近くの公園についての評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している				-0.14 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		b.安全に遊べる遊具が充実している		-0.02 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		c.公園の植物がよい景観をつくっている				0.04 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		h.近くの住民によく利用されている		-0.39 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)					
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	1 位		道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する（16.5％）										2 位		だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる（15.4％）									
		3 位		健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる（14.3％）										4 位		様々なレクリエーションを楽しめるように大きな公園を充実させる（8.1％）									
	問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	1 位		全てに参加したことがない（11.7％）										2 位		生け垣や花壇など自宅の庭の緑化（10.5％）									
	3 位		道路などの清掃活動（9.2％）										4 位		市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産（7.2％）										
問 10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	1 位		こどもの遊び場や散策の場となるみどり（¥151）										1 位		CO2 の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり（¥151）										
	3 位		水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり（¥135）										4 位		日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり（¥121）										

グリーンインフラの効用別分析	地域	町丁目	雨水の 地表面浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (℃)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の 多様度 (%)	豊か・魅力と感じるみどりの 回答数 (件)	農業活動空間 面積率 (%)	散策路・歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面積に 対する現況公園 の過不足面積 (ha)	イベント開催に供 するオープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時における 一人あたりの 避難有効面積 (㎡/人)	水害時における 一人あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	
	北 部	72 北原1丁目	1.02	1.33	33.96	0.87	22.29	8.14	8.5%	105.4	-3.61	5.05	4.45	3.58	
		61 北原2丁目	0.70	1.64	34.42	0.29	19.03	0.52	0.0%	137.9	-3.85	2.11	2.97	2.97	
		75 西原1丁目	0.29	2.01	34.54	0.22	11.65	0.49	2.9%	160.7	-4.77	3.71	3.31	3.15	
		73 西原2丁目	0.58	1.69	34.44	0.26	17.07	1.90	2.4%	55.8	-4.48	1.95	2.62	2.62	
		77 浜崎1丁目	0.53	1.72	34.42	0.32	18.40	0.62	1.1%	164.4	-2.59	6.86	4.92	3.06	
		78 浜崎2丁目	0.79	1.26	33.62	1.12	28.93	2.30	13.6%	163.7	-2.64	10.64	8.38	2.40	
		32 浜崎4丁目	0.78	1.16	33.61	1.25	32.10	2.47	13.0%	45.3	-2.35	10.72	15.14	0.78	
		56 浜崎3丁目	0.60	1.37	33.86	0.76	24.53	27.33	3.6%	201.0	-1.84	13.72	15.23	3.20	
		46 朝志ヶ丘1丁目	0.82	1.50	33.60	1.02	28.97	1.42	0.0%	130.2	-10.06	0.82	1.36	1.36	
		65 朝志ヶ丘2丁目	0.99	1.16	33.97	0.84	28.99	0.97	1.0%	12.8	-5.77	0.72	0.79	0.79	
		66 朝志ヶ丘3丁目	0.87	1.43	34.59	0.38	26.83	0.86	4.1%	26.6	-6.56	0.77	1.72	1.72	
		70 朝志ヶ丘4丁目	0.72	1.57	34.54	0.38	21.73	0.85	4.9%	9.3	-7.51	0.48	1.09	1.09	
		15 宮戸1丁目	0.56	1.78	33.28	0.59	15.97	1.10	2.1%	35.7	-1.21	2.02	3.04	1.60	
		29 宮戸2丁目	0.96	1.31	34.25	0.78	25.64	1.37	7.8%	26.3	-4.85	0.77	0.54	0.54	
		18 宮戸3丁目	0.87	1.07	33.59	1.18	33.65	3.04	11.6%	60.4	-2.94	2.09	1.15	0.42	
		16 宮戸4丁目	0.93	1.15	33.56	1.23	31.05	2.66	9.7%	115.2	-3.79	1.33	3.04	0.35	
		48 田島1丁目	0.40	1.32	33.70	0.73	24.69	52.47	3.6%	210.2	2.48	27.26	14.23	4.58	
		22 田島2丁目	0.45	1.00	32.63	1.95	37.59	17.82	6.5%	167.4	0.59	22.74	11.10	1.60	
		6 大字浜崎の一部	0.62	0.53	32.15	2.85	39.77	26.05	42.5%	79.7	1.02	26.59	32.03	1.18	
		60 大字浜崎の一部	0.45	1.07	32.53	1.61	35.52	84.29	10.9%	97.5	0.70	14.97	13.27	1.12	
		8 大字宮戸の一部	0.45	0.59	31.75	2.79	41.59	9.74	25.7%	58.3	0.52	5.17	19.93	0.65	
		51 大字田島の一部	0.53	0.76	33.07	2.01	28.90	22.33	30.5%	88.7	3.02	33.58	23.51	0.95	
		地域全体		0.68	1.18	33.35	1.33	29.40	10.74	12.2%	88.8	-2.15	9.30	9.86	1.43
		朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95
健全な水循環を支えるみどり			域内の段丘面では都市的土地利用が優占しており、雨水の地表面浸透量は市全域の評価値よりも低い。一方、段丘面に分布する農地や公園などの自然面では雨水浸透の能力が高く、水害防止や地下水の涵養に貢献していると考えられる。沖積低地では、地下水位が浅いことから雨水の地表面浸透量は多くない。一方、地表面排水量も多くなく、地域として雨水を貯める能力が高いと考えられる。												
都市の気温上昇を抑えるみどり			域内は都市的土地利用が優占し、また自然的土地利用においても畑地が多いため、全体として地表面温度が高い傾向がある。一方で、新河岸川や黒目川に沿って冷涼な空間が帯状に形成され、公共施設の植栽や樹林が分布するエリアではクールスポットが形成されており、ヒートアイランド現象の緩和に貢献している。												
地球温暖化防止に貢献するみどり			宮戸 3 丁目から浜崎 4 丁目にかけて残存する斜面林、新河岸川や黒目川の草地、大字浜崎・大字宮戸などに分布する畑地は、二酸化炭素の吸収源として役割を果たしている。雑木林では樹林の老齢化・常緑化が進行しており、近年はカシノナガキクイムシの媒介によるナラ枯れの被害も多い。												
生き物の生息空間となるみどり			新河岸川と黒目川は水域と草地の生物生息環境が組み合わせさり、生物指標の多様度が高い結果となった。大字宮戸から大字田島にかけて農地が分布しており、隣接する河川空間と一体となって生き物たちの生息場所を提供していると思われる。市街地内では、屋敷林や公園・学校の植栽などの樹林、小区画の畑地が分布し、市街地の中の小規模な生き物空間を形成している。												
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり			黒目川は豊か・魅力的と感じるみどりとして最も回答が多かった。この他北割公園や北朝霞公園の回答がつづく。また一般名詞の回答からは公園や畑、並木道、里山、民有地のみどりなどの回答があり、地域に継承されてきた大字宮戸から大字田島にかけての田園景観、斜面林や屋敷林に加えて、市街地における公園や緑化空間が評価された。一方で、みどりの景観資源に乏しい地区も存在する。												
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり			域内の身近な農業活動空間としては、大字宮戸から大字田島にかけて連担して農地が分布しているほか、市街地においては宮戸 2 丁目～4 丁目において小規模な農地が点在している。宮戸 3 丁目の斜面林と一体となった田んぼの保全が検討されている。												
健康づくりの場となるみどり			新河岸川右岸、黒目川左岸の遊歩道等はジョギングや散歩のコースとして親しまれており、健康まちづくりの視点から重要な資源である。また、北朝霞駅周辺では歩道のネットワークも充実している。一方で駅から離れた宮戸付近などでは道路歩道のネットワークが十分ではない。												
身近な遊び場となるみどり			域内の市街地では、人口増加に公園整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘から宮戸付近で不足している。令和 7 年 6 月に公園整備のニーズに対応し「みやど公園」が整備された。域内には、児童遊園地や開発緑地、生産緑地、特別緑地保全地区などの保全緑地があり、遊び場としてのポテンシャルを有している。												
にぎわいや交流の場となるみどり			域内の市街地において、イベント開催に供するオープンスペースが不足している。令和 6 年度に北朝霞駅西口ロータリーの広場利用に関する実証実験が行われた。ハード整備の検討だけでなく、柔軟な発想で既存公園や公共的な空間を使いこなして、にぎわいや交流の場の機会を充実していくことも重要である。												
避難地や防災拠点となるみどり			宮戸から朝志ヶ丘にかけて身近な防災拠点となる都市公園が不足している。												

主要課題の整理	
① 《身近な公園の不足》	人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘や宮戸エリアで公園が不足しています。市民の公園に対する満足度も低い状況です。
② 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》	市民からは「みどり豊かで安全な歩道」を望む声が多く、駅から離れた地域などで、誰もが安心して歩ける道の整備が課題です。
③ 《黒目川の保全と活用》	朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を保全しながら、魅力を高め次世代に継承していくことが求められます。
④ 《ヒートアイランド現象への対策》	住宅が密集しているため、ヒートアイランド現象を緩和するための緑化が重要になっています。
⑤ 《防災機能の強化》	身近な防災拠点となる公園について、朝志ヶ丘や宮戸において不足しています。
⑥ 《樹林地の保全》	樹林地は貴重な自然環境となっていますが、樹林の老齢化が進み「ナラ枯れ」被害が拡大しました。地区に残る樹林地を残すことに加え、持続性のある樹林地管理が求められます。
⑦ 《農業景観の保全》	黒目川沿い、新河岸川沿いには良好な農業景観が広がっています。市民の暮らしを支える様々な役割を踏まえ保全が望まれます。また、宮戸緑地周辺には、斜面林と水田、河川からなる良好な農業景観が残されています。伝統的な農業景観の名残として貴重な空間であり保全が求められます。

東部地域		面 積				人 口				みどり率				緑地率					
		3.6km ²				30,883 人				37.3%				(作成中)					
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの 豊かさや魅力に満足している		0.22 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		d.お住いの近くの公園 に満足している		-0.03 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		g.災害時に避難地や活動拠点 として機能する公園がある		0.01 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		h.公共空間のみどりや民有地のみどりによ って良いまちの景観がつくられている		0.16 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)			
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり (回答対象とその件数)	黒目川 (331 件)、城山公園 (70 件)、新河岸川 (22 件)、越戸川 (12 件)、田島緑地 (9 件)、水久保公園 (6 件)、朝霞駅周辺 (5 件)、高橋家住宅 (4 件)、東円寺 (3 件)						問 3 将来に残していきたいと思うみどり (回答対象とその件数)		黒目川 (158 件)、城山公園 (85 件)、根岸台の斜面林 (10 件)、新河岸川 (6 件)、柊塚古墳公園 (4 件)、水久保公園 (4 件)、朝霞駅周辺 (3 件)、高橋家住宅 (3 件)、越戸川 (3 件)、根岸台自然公園 (3 件)						問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)		31.1 回 (市全体 30.9 回)	
	問 5 近くの公園についての評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充 実している		0.07 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		b.安全に遊べる遊具が充実し ている		-0.05 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		c.公園の植物がよい景観をつ くっている		0.16 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		h.近くの住民によく 利用されている		0.34 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)			
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	1 位	道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する (18.2%)								2 位	だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる (16.8%)							
		3 位	健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる (13.3%)								4 位	民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する (7.4%)							
	問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	1 位	生け垣や花壇など自宅の庭の緑化 (12.4%)								2 位	道路などの清掃活動 (11.3%)							
	3 位	全てに参加したことがない (10.6%)								4 位	河川の清掃や草刈り (7.0%)								
問 10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	1 位	水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり (¥142)								2 位	CO2 の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり (¥129)								
	3 位	日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり (¥128)								4 位	こどもの遊び場や散策の場となるみどり (¥112)								

グリーンインフラの効用別分析	地 域	町丁目	雨水の 地表面浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (℃)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の 多様度 (%)	豊か・魅力と感 じるみどりの 回答数 (件)	農業活動空間 面積率 (%)	散策路・歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面積に 対する現況公園 の過不足面積 (ha)	イベント開催に供 するオープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時におけ る一人あたりの 避難有効面積 (㎡/人)	水害時における 一人あたりの避 難有効面積 (㎡/人)		
	東 部	63 仲町1丁目	0.81	1.50	34.53	0.35	20.91	0.74	4.3%	15.9	-5.86	0.55	1.10	1.10		
		49 仲町2丁目	0.69	1.70	33.97	0.87	24.46	2.72	8.0%	259.4	-6.65	1.22	0.85	0.85		
		44 根岸台1丁目	0.98	1.34	34.27	0.70	25.82	1.55	11.5%	7.7	-6.11	0.53	1.12	1.12		
		24 根岸台2丁目	1.31	0.95	33.11	1.94	36.14	4.05	27.3%	86.1	-2.14	3.96	2.97	4.03		
		28 根岸台3丁目	0.59	1.47	33.96	0.81	28.08	1.53	2.4%	126.8	-3.57	9.40	6.78	7.45		
		30 根岸台4丁目	1.25	0.97	33.03	1.85	41.11	3.25	17.7%	80.7	-1.69	4.00	2.02	2.34		
		43 根岸台5丁目	1.04	1.38	33.81	1.04	27.96	3.17	17.0%	154.3	-4.14	0.98	0.54	0.54		
		53 根岸台6丁目	1.05	1.38	33.91	1.08	25.89	2.42	18.7%	34.9	-5.35	1.34	0.98	0.98		
		7 根岸台7丁目	1.27	1.01	33.26	1.77	37.86	4.48	23.9%	24.3	-2.65	3.00	2.60	2.60		
		33 根岸台8丁目	1.31	0.87	32.71	2.28	41.79	5.67	19.5%	57.3	-1.69	5.54	3.77	2.88		
		26 岡1丁目	0.98	1.34	33.99	0.99	26.07	2.20	16.4%	46.5	-4.57	1.65	2.91	2.76		
		35 岡2丁目	1.05	1.06	32.99	1.76	38.26	2.66	5.1%	115.9	-0.81	15.01	15.72	0.76		
		11 岡3丁目	0.91	1.07	33.12	1.49	37.59	20.15	6.7%	81.3	-0.72	12.59	8.20	3.61		
		19 大字岡	0.57	0.65	32.43	2.32	35.45	45.77	28.6%	125.8	2.12	41.06	41.26	0.47		
		3 大字台・根岸	0.52	0.43	31.91	2.49	36.29	28.14	26.6%	87.8	2.56	133.49	147.05	64.75		
		87 大字溝沼の一部	0.40	1.22	33.23	1.13	25.22	37.02	9.5%	39.1	0.23	23.00	21.42	0.57		
		地域全体	0.90	1.01	33.11	1.67	33.85	13.53	17.6%	81.9	-1.55	30.04	31.46	12.76		
		朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95		
	健全な水循環を支えるみどり		段丘面は、宅地化が進行しており、農地等の自然的土地利用と宅地等の都市的土地利用が混在している。雨水の地表面浸透量は市全域の評価値よりも高い。農地等の自然面では、雨水浸透の能力が高く、水害防止や地下水の涵養に貢献していると考えられる。段丘崖下には湧水地が分布している。沖積低地では、地下水位が浅いことから雨水の地表面浸透量は多くない。一方、地表面排水量も多くなく、地域として雨水を貯める能力が高いと考えられる。													
都市の気温上昇を抑えるみどり		域内は宅地化が進行するなどで、全体として地表面温度が高い傾向がある。一方で城山公園や東円寺、根岸台の斜面林や屋敷林では、小規模ながらクールスポットが形成されており、ヒートアイランド現象の緩和に貢献している。														
地球温暖化防止に貢献するみどり		段丘面の縁には斜面林が残存するほか、宅地化等が進行しているものの農地が広く分布しており、二酸化炭素の吸収源として役割を果たしている。雑木林では樹林の老齢化・常緑化が進行しており、近年はカシノナガキクイムシの媒介によるナラ枯れの被害も多い。														
生き物の生息空間となるみどり		域内は宅地化が進む一方で、農地や樹林地が点在しており、複雑なモザイクを形成し、生物指標の多様度が高い結果となった。域内に点在する樹林地や農地が、広域的なエコロジカルネットワークにおける回廊や飛び石ネットワークの役割も担うと考えられ、まちなみと生き物環境とが調和した地域と評価される。														
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり		黒目川は豊か・魅力的と感じるみどりとして最も回答が多かった。この他城山公園、越戸川、田島緑地、水久保公園、高橋家住宅、東円寺、根岸台自然公園の回答がつづく。また一般名詞の回答からは公園や畑、並木道、里山、民有地のみどりなどの回答があり、地域に継承されてきた田園景観、斜面林や屋敷林が評価された。大字台・根岸では近年規模の大きな開発事業が進んでいる。														
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり		大字岡や大字台・根岸に連担して農地が分布するほか、段丘面においても生産緑地となる農地が点在しており、身近な農業活動の場が充実した地域である。														
健康づくりの場となるみどり		黒目川、城山公園、東円寺、湧水代官水、高橋家住宅、根岸台の斜面林など、みどり豊かな景観資源に恵まれている。これらを結ぶトレイルコースも設定されている。朝霞駅からのネットワークを踏まえると歩道のネットワークが確保されていない区間がある。														
身近な遊び場となるみどり		域内の市街地では、人口の増加に公園整備が追いついておらず、特に朝霞駅周辺で不足している。令和 7 年 4 月に公園整備のニーズに対応し「まぼりひがし公園」が整備された。また、令和 8 年度以降に「まぼりみなみ公園」の整備も計画されている。域内には、児童遊園地や開発緑地、生産緑地、特別緑地保全地区などの保全緑地があり、遊び場としてのポテンシャルを有している。														
にぎわいや交流の場となるみどり		域内の市街地、特に朝霞駅周辺において、イベント開催に供するオープンスペースが不足している。ハード整備の検討だけでなく、柔軟な発想で既存公園や公共的な空間を使いこなして、にぎわいや交流の場の機会を充実していくことも重要である。														
避難地や防災拠点となるみどり		身近な防災拠点となる都市公園について、仲町から根岸台 1 丁目・5 丁目・6 丁目付近にかけて不足している。														

主要課題の整理

① 《農地や斜面林と調和したまちづくり》 宅地化が進む中で、崖線（がいせん）のみどりや田園風景といった、この地域ならではの景観をいかにして守り、まちづくりと両立させるかが大きな課題です。

② 《都市環境の維持》 宅地化が進む中で、みどりが持つ環境調整機能（地下水涵養や水害抑制、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全など）を維持していく必要があります。

③ 《みどりのネットワークの形成》 点在する公園や緑地を、快適な遊歩道でつなぎ、まち歩きを楽しめるような「みどりのネットワーク」を作ることが求められています。

④ 《中心市街地における憩いの空間の創出》 人口が集中する朝霞駅周辺は、公園が不足しており、子どもたちの遊び場や多世代が交流できるオープンスペースの確保が求められます。一方で身近な公園整備が進められており、公園を核としたコミュニティ活動の促進も求められます。

⑤ 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について仲町から根岸台 1 丁目・5 丁目・6 丁目付近において不足しています。

西部地域		面 積		人 口		みどり率		緑地率						
		2.2km ²		29,563 人		18.9%		(作成中)						
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみのりの 豊かさや魅力に満足している		-0.10 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	d.お住いの近くの公園 に満足している		-0.10 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	g.災害時に避難地や活動拠点 として機能する公園がある		-0.14 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	h.公共空間のみどりや民有地のみどりによ って良いまちの景観がつけられている		-0.10 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり (回答対象とその件数)	黒目川（331 件）、島の上公園（7 件）、南割公園（6 件）				問 3 将来に残していきたいと思うみどり (回答対象とその件数)		黒目川（154 件）、島の上公園（10 件）、南割公園（7 件）、朝霞台駅の木々（2 件）、弁財公園（2 件）				問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)		21.9 回 (市全体 30.9 回)
	問 5 近くの公園についての評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充 実している		-0.07 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	b.安全に遊べる遊具が充実し ている		-0.01 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	c.公園の植物がよい景観をつ くっている		0.07 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	h.近くの住民によく 利用されている		0.43 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	1 位	道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する（18.6％）						2 位	だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる（15.3％）				
	問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	3 位	健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる（12.4％）						4 位	民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する（9.3％）				
問 10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	1 位	全てに参加したことがない（13.0％）						2 位	道路などの清掃活動（9.7％）					
	3 位	生け垣や花壇など自宅の庭の緑化（9.3％）						4 位	市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産（8.0％）					
	1 位	CO2 の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり（¥182）						2 位	日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり（¥141）					
	3 位	避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり（¥121）						4 位	水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり（¥118）					

グリーンインフラの効用別分析	地域	町丁目	雨水の 地表面浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (℃)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の 多様度 (%)	豊か・魅力と感 じるみのりの 回答数 (件)	農業活動空間 面積率 (%)	散策路・歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面積に 対する現況公園 の過不足面積 (ha)	イベント開催に供 するオープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時におけ る一人あたりの 避難有効面積 (㎡/人)	水害時における 一人あたりの避 難有効面積 (㎡/人)
	西部	79 東弁財1丁目	0.18	2.17	34.67	0.09	11.45	0.21	0.0%	293.4	-9.39	1.95	1.60	1.60
		69 東弁財2丁目	0.57	1.45	34.06	0.73	24.17	2.29	9.3%	74.0	-5.68	6.94	2.17	1.43
		67 東弁財3丁目	0.67	1.64	34.27	0.26	21.49	1.20	0.6%	70.3	-5.16	3.23	3.11	2.10
		71 西弁財1丁目	0.51	1.77	34.58	0.13	16.89	1.21	0.0%	101.3	-4.61	1.07	1.51	1.51
		81 西弁財2丁目	0.35	2.04	34.73	0.12	14.71	0.23	0.0%	257.4	-8.92	0.59	1.62	1.62
		27 三原1丁目	0.64	1.71	34.42	0.42	23.36	1.24	3.1%	70.6	-6.61	0.39	1.59	1.59
		36 三原2丁目	0.72	1.59	34.46	0.36	24.57	0.72	2.8%	52.3	-7.95	0.57	0.93	0.93
		31 三原3丁目	0.91	1.32	34.12	0.62	29.13	1.05	3.8%	61.2	-6.57	0.76	0.84	0.84
		74 三原4丁目	0.62	1.52	34.65	0.20	25.69	0.37	0.0%	28.0	-7.76	1.04	1.02	1.02
		39 三原5丁目	0.72	1.58	34.20	0.60	23.73	1.40	9.1%	33.3	-4.56	0.56	0.71	0.71
		58 泉水1丁目	0.74	1.70	34.27	0.79	19.83	2.12	11.6%	103.8	-2.08	3.22	2.27	3.63
		50 泉水2丁目	0.83	1.44	33.80	1.13	25.97	2.71	15.8%	42.3	-3.54	5.68	3.53	3.32
		13 泉水3丁目	0.75	1.55	33.89	0.97	26.62	1.53	4.2%	57.8	-3.85	3.94	4.20	1.78
		62 膝折町3丁目の一部	0.78	1.45	33.96	0.89	25.95	14.65	5.0%	16.3	-1.58	7.56	2.09	3.88
		84 膝折町4丁目の一部	0.48	1.69	33.93	0.72	22.79	21.96	2.0%	56.1	-3.57	6.98	3.87	5.14
		88 大字浜崎の一部	0.70	0.51	32.07	3.11	40.82	41.28	56.7%	46.9	0.35	10.96	4.07	0.43
		86 大字溝沼の一部	0.78	0.82	32.58	1.97	31.69	56.08	27.7%	49.0	0.24	8.33	5.85	2.17
		地域全体	0.69	1.50	33.99	0.80	25.04	9.17	8.0%	65.9	-4.55	3.58	2.64	2.02
		朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95
健全な水循環を 支えるみどり		域内の段丘面では都市的土地利用が優占しており、雨水の地表面浸透量は市全域の評価値よりも低い。一方、農地や公園などの自然面では雨水浸透の能力が高く、水害防止や地下水の涵養に貢献していると考えられる。段丘崖下には湧水地が分布している。一方、地表面排水量は市全域の評価値よりも多く、雨水管渠網への負荷が大きいと考えられる。												
都市の気温上昇を 抑えるみどり		域内は都市的土地利用が優占していることから、全体として地表面温度が高い傾向がある。一方で、黒目川に沿って冷涼な空間が帯状に形成され、斜面林等の樹林が分布するエリアではクールスポットが形成されており、ヒートアイランド現象の緩和に貢献している。												
地球温暖化防止に 貢献するみどり		域内は都市的土地利用が優占していることから、全体として炭素固定能力は低い結果となった。泉水から膝折町4丁目にかけて分布する斜面林、黒目川の草地、大字浜崎、大字溝沼等に分布する畑地は、二酸化炭素の吸収源として役割を果たしている。												
生き物の生息空間と なるみどり		黒目川は水域と草地の生物生息環境が組み合わさり、生物指標の多様度が高い結果となった。斜面林や公園・学校の植栽などの樹林、小区画の畑地が分布し、崖線下には湧水が分布し、市街地の中の小規模な生き物空間を形成している。												
まちの美観・郷土の風景を 形成するみどり		黒目川は豊か・魅力的と感じるみどりとして最も回答が多かった。この他島の上公園や南割公園の回答がつづく。また一般名詞の回答からは公園や畑、並木道、里山、民有地のみどりなどの回答があり、地域に継承されてきた三原3丁目、泉水、大字浜崎、大字溝沼にかけての農地景観、斜面林に加えて、市街地における公園や緑化空間が評価された。一方で、みどりの景観資源に乏しい地区も存在する。												
暮らしに息づく 農業活動の場となるみどり		域内の身近な農業活動空間としては、大字浜崎から大字溝沼にかけて農地が分布しているほか、市街地においては泉水などにおいて小規模な農地が点在している。みどりが少ない三原周辺において農地が残されている。												
健康づくりの場 となるみどり		黒目川沿いの遊歩道はジョギングや散歩のコースとして親しまれており、健康まちづくりの視点から重要な資源である。また、北朝霞駅周辺や幹線道路では歩道のネットワークも充実している。一方で駅から離れた三原付近などでは道路歩道のネットワークが十分ではない。												
身近な遊び場 となるみどり		域内の市街地では、人口の増加に公園整備が追いついておらず、公園が全体的に不足している。特に三原から東弁財にかけて不足している。域内には、黒目川、児童遊園地、生産緑地などがあり、遊び場としてのポテンシャルを有している。												
にぎわいや交流の場 となるみどり		域内の武蔵野線付近の以西において、イベント開催に供するオープンスペースが不足している。ハード整備の検討だけでなく、柔軟な発想で既存公園や公共的な空間を使いこなして、にぎわいや交流の場の機会を充実していくことも重要である。												
避難地や防災拠点 となるみどり		身近な防災拠点となる都市公園について、三原3丁目から三原5丁目付近にかけて不足している。												

① 《都市基盤としての「グリーンインフラ」の拡充》 建物や道路など、水が浸透しにくい地面が多いため、大雨の際に雨水が一気に流れ出すリスクがあるほか、ヒートアイランド現象が顕著です。みどりを増やし、都市の基盤（インフラ）として機能させる「グリーンインフラ」の考え方が特に重要になります。

② 《身近な公園の不足》 住民のみどりや公園に対する満足度が低く、公園の数と質の両面からの改善が求められています。特に三原や東弁財エリアでは公園が不足しており、身近な公園の設置を望む声が多い結果となっています。

③ 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 駅から離れた地域では歩道が十分に整備されておらず、安全な歩行空間の確保が課題です。

④ 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を保全しながら、魅力を高め次世代に継承していくことが求められます。

⑤ 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園が不足しており、特に三原などで顕著です。

⑥ 《市民参加の促進》 清掃活動などの緑化活動への参加経験がある住民が少ない傾向があります。みどりへの愛着を育み、市民が主体となったまちづくりを進めるためのきっかけ作りが必要です。

南部地域		面 積			人 口			みどり率			緑地率	
		5.3km ²			53,204 人			26.6%			(作成中)	
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみのりの豊かさや魅力に満足している (そう思わない-1.0～1.0 と思う) 0.41			d.お住いの近くの公園に満足している (そう思わない-1.0～1.0 と思う) 0.29			g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある (そう思わない-1.0～1.0 と思う) 0.22			h.公共空間のみどりや民有地のみどりによって良いまちの景観がつくられている (そう思わない-1.0～1.0 と思う) 0.34	
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり (回答対象とその件数)	黒目川 (331 件)、青葉台公園 (116 件)、シンボルロード (115 件)、朝霞の森 (106 件)、市役所周辺 (48 件)、朝霞中央公園 (43 件)、滝の根公園 (35 件)、公園通り (29 件)、米軍基地跡地 (15 件)、朝霞駅周辺 (5 件)、広沢の池 (3 件)			問 3 将来に残していきたいと思うみどり (回答対象とその件数)			朝霞の森 (158 件)、黒目川 (154 件)、青葉台公園 (55 件)、シンボルロード (42 件)、米軍基地跡地 (34 件)、滝の根公園 (27 件)、公園通り (14 件)、朝霞中央公園 (13 件)、市役所周辺 (9 件)、朝霞駅周辺 (3 件)、広沢の池 (3 件)			問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	35.9 回 (市全体 30.9 回)
	問 5 近くの公園についての評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している (そう思わない-1.0～1.0 と思う) 0.19			b.安全に遊べる遊具が充実している (そう思わない-1.0～1.0 と思う) 0.16			c.公園の植物がよい景観をつくっている (そう思わない-1.0～1.0 と思う) 0.37			h.近くの住民によく利用されている (そう思わない-1.0～1.0 と思う) 0.51	
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	1 位	道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する (18.8%)						2 位	だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる (14.0%)		
		3 位	健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる (11.8%)						4 位	民間の協力を得て、魅力的な公園の空間を整備し運営する (8.2%)		
問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	1 位	全てに参加したことがない (14.5%)						2 位	道路などの清掃活動 (10.2%)			
	3 位	生け垣や花壇など自宅の庭の緑化 (10.1%)						4 位	身近な生き物観察やみどりの調査 (6.5%)			
問 10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	1 位	CO2 の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり (¥156)						2 位	水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり (¥142)			
	3 位	日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり (¥118)						4 位	避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり (¥115)			

地域	町丁目	雨水の 地表面浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (℃)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の 多様度 (%)	豊か・魅力と感 じるみどりの 回答数 (件)	農業活動空間 面積率 (%)	散策路・歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面積に 対する現況公園 の過不足面積 (ha)	イベント開催に供 するオープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時におけ る一人あたりの 避難有効面積 (㎡/人)	水害時における 一人あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	
南部	5 本町1丁目	0.70	1.61	34.34	0.40	20.62	1.71	2.6%	97.4	-3.06	3.07	4.20	4.19	
	21 本町2丁目	0.68	1.68	34.71	0.14	17.19	0.47	0.0%	73.6	-6.44	3.11	2.92	2.92	
	40 本町3丁目	0.88	1.42	33.69	0.99	27.05	3.04	13.5%	159.6	1.15	5.49	6.56	6.55	
	54 栄町1丁目	0.77	1.46	34.23	0.41	25.37	1.27	1.8%	32.8	-3.81	4.97	7.14	7.14	
	52 栄町2丁目	0.70	1.55	34.24	0.55	26.58	1.13	4.9%	66.9	-6.82	1.21	2.51	2.51	
	59 栄町3丁目	0.52	1.99	34.50	0.37	21.01	0.61	0.0%	129.4	-6.30	5.44	9.16	9.16	
	80 栄町4丁目	0.46	2.05	34.32	0.12	19.43	0.36	0.0%	256.7	-2.30	3.04	6.78	6.78	
	41 栄町5丁目	0.88	1.59	34.01	0.44	20.55	0.86	0.3%	161.9	4.08	11.91	26.02	26.02	
	45 幸町1丁目	0.83	1.47	34.22	0.48	24.69	1.13	5.9%	97.9	1.67	8.65	14.26	14.26	
	34 幸町2丁目	0.77	1.53	34.41	0.28	25.62	0.48	0.0%	85.0	-3.92	4.45	21.22	21.22	
	20 幸町3丁目	0.97	1.46	33.66	0.92	23.42	1.56	0.1%	97.4	0.04	8.30	39.77	39.77	
	25 膝折町1丁目	0.94	1.33	34.18	0.69	26.36	1.61	10.5%	23.1	-4.20	3.35	4.59	4.69	
	14 膝折町2丁目	0.58	1.56	33.81	0.86	25.99	12.16	5.7%	108.7	-2.56	6.23	12.80	12.80	
	85 膝折町3丁目の一部	0.37	1.54	33.63	0.59	23.73	80.94	0.0%	22.1	-1.96	5.77	0.91	2.14	
	10 膝折町4丁目の一部	0.77	1.27	33.99	0.64	22.96	21.78	5.4%	23.7	-3.87	5.70	3.25	3.88	
	68 膝折町5丁目	0.99	1.24	33.97	1.22	25.04	2.99	26.7%	4.3	-2.36	3.94	5.13	5.20	
	76 溝沼1丁目	0.75	1.50	34.32	0.61	25.70	1.27	6.5%	53.1	-1.76	4.74	4.76	4.76	
	47 溝沼2丁目	0.80	1.37	33.83	1.03	30.57	7.48	7.5%	92.7	-4.81	2.08	2.23	1.35	
	55 溝沼3丁目	0.87	1.22	34.14	0.76	26.59	1.58	6.4%	10.2	-4.45	4.90	4.82	3.19	
	64 溝沼4丁目	0.50	1.55	34.30	0.49	24.12	0.97	4.3%	35.8	-5.61	7.58	6.54	1.91	
	57 溝沼5丁目	0.63	1.33	33.90	0.77	31.27	1.71	8.0%	67.7	-6.33	3.01	3.58	1.72	
	37 溝沼6丁目	0.49	1.33	34.01	0.78	31.76	1.37	5.0%	49.4	-4.17	3.58	2.75	1.97	
	42 溝沼7丁目	0.39	1.31	34.07	0.58	27.31	1.24	6.3%	44.8	-5.07	8.98	3.32	0.32	
	4 大字溝沼の一部	0.60	0.87	32.76	1.65	31.29	63.33	18.6%	66.3	0.04	9.44	6.02	0.96	
	38 青葉台1丁目	1.28	1.22	32.46	2.01	38.12	38.31	1.0%	226.0	10.98	18.69	33.89	33.89	
	17 大字膝折	1.99	0.46	30.90	3.51	48.83	55.49	0.0%	195.7	12.76	25.05	42.47	42.47	
	23 自衛隊	1.42	1.07	32.60	1.92	37.07	2.81	0.0%	26.8	1.61	64.50	81.92	81.92	
	12 自衛隊	1.95	0.50	31.61	3.47	46.70	2.32	0.0%	10.7	0.44	32.32	58.74	58.74	
	9 自衛隊	1.42	1.03	32.53	1.78	37.95	2.72	0.1%	13.4	2.97	142.55	144.83	144.83	
	地域全体		0.97	1.28	33.49	1.19	29.50	9.82	4.0%	78.6	-0.79	21.62	28.79	28.36
	朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95
健全な水循環を支えるみどり		域内は都市化が進行しているものの、基地跡地や自衛隊敷地のまとまった自然面が残されており、また、本町3丁目や溝沼、幸町、膝折町において農地等の自然面が点在しており、雨水の地表面浸透量は市全域の評価値よりも高い。段丘崖下には湧水地が分布している。地表面排水量は商業地や宅地などで多くなり、基地跡地（大字膝折）や自衛隊敷地、点在する農地等において少ない。特に基地跡地（大字膝折）及び自衛隊敷地は雨水浸透の能力が高く、水害防止や地下水の涵養に大きく貢献していると考えられる。												
都市の気温上昇を抑えるみどり		域内は宅地化が進行するなど、全体として地表面温度が高い傾向がある。基地跡地（大字膝折）及び自衛隊敷地はまとまりのあるクールスポットが形成されており、ヒートアイランド現象の緩和に貢献している。												
地球温暖化防止に貢献するみどり		都市化が進む域内において、基地跡地（大字膝折）及び自衛隊敷地の樹林地及び草地は二酸化炭素の吸収源として役割を果たしている。また、点在する樹林地や農地においても小規模ながら二酸化炭素の吸収源として役割を果たしている。雑木林では樹林の老齢化・常緑化が進行しており、近年はカシノナガキクイムシの媒介によるナラ枯れの被害も多い。												
生き物の生息空間となるみどり		都市化が進む域内において、基地跡地（大字膝折）及び自衛隊敷地は豊かな樹林や草地がモザイクを形成し、生物指標の多様度が高い結果となった。この他段丘外の樹林と湧水環境、黒目川と沿川の農地により生物指標の多様度の高いエリアが点在している。これらの大小の緑地が点在することで、広域的なエコロジカルネットワークにおける回廊や飛び石ネットワークの役割も担うと考えられ、まちなみと生き物環境とが調和した地域と評価される。												
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり		黒目川は豊か・魅力的と感じるみどりとして最も回答が多かった。この他基地跡地周辺の緑地景観について評価が高く、滝の根公園がつづく。また一般名詞の回答からは公園や畑、並木道、里山、民有地のみどりなどの回答があり、本地域では市街地における公園や緑化空間が評価された。一方で、みどりの景観資源に乏しい地区も存在する。												
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり		溝沼や膝折町、本町3丁目付近に農地が点在し、身近な農業活動の場が残されている。												
健康づくりの場となるみどり		朝霞駅から基地跡地周辺は、並木道や遊歩道が整備され、ジョギングや散歩のコースとして親しまれており、健康まちづくりの視点から重要な資源である。この他幹線道路も概ね歩道のネットワークが構築されている。一方、本町や溝沼などでは歩道のネットワークが十分でない区間がある。												
身近な遊び場となるみどり		基地跡地周辺や和光市や練馬区に接するエリアでは、豊かな公園空間があるため、身近な遊び場面積が充足している。一方、その他のエリアは人口の増加に公園整備が追いついておらず、身近な公園が不足している。域内には、基地跡地や生産緑地などがあり、遊び場としてのポテンシャルを有している。												
にぎわいや交流の場となるみどり		朝霞の森やシンボルロード、青葉台公園、朝霞中央公園などは、彩夏祭やアサカストリートテラスをはじめ、様々なイベントが開催され、にぎわいや交流の場として機能している。また黒目川も景観資源を生かしたイベントが開催されており、朝霞市の良好なイメージ形成に大きく寄与している。これ以外の場所では、イベント開催に供するオープンスペースが不足している。ハード整備の検討だけでなく、柔軟な発想で既存公園や公共的な空間を使いこなして、にぎわいや交流の場の機会を充実していくことも重要である。												
避難地や防災拠点となるみどり		青葉台公園や朝霞中央公園などまとまった公園があることから概ね充足している。												

主要課題の整理

① 《大規模緑地の保全と機能維持》 基地跡地などの大規模な緑地は、都市の気温上昇を抑え、二酸化炭素（CO₂）の吸収源となる、まさに「都市の肺」のような存在です。この貴重な環境を適切に管理し、その機能を維持していくことが不可欠です。

② 《みどりの偏在の是正》 基地跡地などに大規模な公園が集中している一方で、その他の住宅地では身近な公園が不足しており、みどりの配置に偏りが見られます。

③ 《みどりのネットワークの形成》 市民からは「みどり豊かで安全な歩道」を望む声が多くなっています。本町や溝沼エリアでは誰もが安心して歩ける道の整備が求められます。

④ 《都市基盤としての「グリーンインフラ」の拡充、都市環境の維持》 基地跡地などまとまった緑地以外は建物や道路など、水が浸透しにくい地面が多いため、それらの地域では大雨の際に雨水が一気に流れ出すリスクや、ヒートアイランド現象が顕著です。みどりを増やし、都市の基盤（インフラ）として機能させる「グリーンインフラ」の考え方が特に重要になります。

⑤ 《コミュニティの場の形成》 大規模な公園以外に、地域住民が気軽に集えるようなオープンスペースが少なく、コミュニティ活性化の観点からも課題となっています。

⑥ 《樹林地の保全》 樹林地は貴重な自然環境であることから、樹林地を残すとともに、持続性のある樹林地管理が求められます。

グリーンインフラの効用別分析

地域別計画の方向性(主要な取り組み)

各地域の課題に基づき、主要な取り組みを検討します。

	【主要な課題】	【主要な取り組み】
内間木地域	《身近な公園の不足》 本地域は公園が少なく、市民アンケートでも身近な憩いの場を求める声が最も多く挙がっています。 《水辺空間の柔軟な活用》 荒川河川敷や新河岸川、朝霞調整池などの豊かな自然環境が分布していることから、これらの自然環境の保全を図りながら、遊び場や自然との触れ合いの場、体力増進の場として、柔軟に生かす方策を検討する必要があります。 《田園景観の保全と活用》 使われていない農地(休耕地)が比較的多く、この地域ならではの田園風景や、そこに息づく生態系をどう守り、活用していくかが問われています。 《水害リスクへの備え》 川に近く土地が低いため、大雨による浸水のリスクが高い一方、災害時に安全を確保できる場所が不足しています。 《人工的被覆の増加による環境保全機能の低下》 近年、工場などが増え、アスファルトで覆われた地面が多くなったため、夏場の地表面温度の上昇や降雨時の表面排水の増加が課題です。	- 暮らしを支えるみどりの拠点とネットワークを創出する - 公園が不足している現状に対して、内間木公園の拡張整備を推進します。住民参加のワークショップなどを通じて、「自分たちの手で育てる公園」としてリニューアルし、身近な遊び場として、また地域の交流拠点や防災拠点として整備推進を検討します。 - バイパス等の整備に伴う周辺地域の開発においては、内間木公園などの地域の拠点的なみどりととのワークの形成を踏まえ、植樹帯や公園等のみどりの空間の充実を促進します。 - 田園と水辺の景観を保全・活用する - 地域の財産である田園風景や水辺環境を守りながら、その魅力を市民が享受できるような活用方法を検討します。 - 荒川や新河岸川、朝霞調整池の豊かな自然を守りながら活かし地域内外の人が楽しめる魅力的な水辺空間づくりを検討します。 - 災害に強く、環境にやさしい地域を築く - 水田や畑地が持つ、雨水を一時的に貯める機能に着目し、水害リスクの軽減を図る本地域の在り方を検討します。 - バイパス等の整備に伴う周辺地域の開発においては、グリーンインフラを踏まえた環境や景観に配慮した取り組みの促進を検討します。
北部地域	《身近な公園の不足》 人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘や宮戸エリアで公園が不足しています。市民の公園に対する満足度も低い状況です。 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 市民からは「みどり豊かで安全な歩道」を望む声が多く、駅から離れた地域などで、誰もが安心して歩ける道の整備が課題です。 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を保全しながら、魅力を高め次世代に継承していくことが求められます。 《ヒートアイランド現象への対策》 住宅が密集しているため、ヒートアイランド現象を緩和するための緑化が重要になっています。 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について、朝志ヶ丘や宮戸において不足しています。 《樹林地の保全》 樹林地は貴重な自然環境となっていますが、樹林の老齢化が進み「ナラ枯れ」被害が拡大しました。地区に残る樹林地を残すことに加え、持続性のある樹林地管理が求められます。 《農業景観の保全》 黒目川沿い、新河岸川沿いには良好な農業景観が広がっています。市民の暮らしを支える様々な役割を踏まえ保全が望まれます。また、宮戸緑地周辺には、斜面林と水田、河川からなる良好な農業景観が残されています。伝統的な農業景観の名残として貴重な空間であり保全が求められます。	- 暮らしの質を高める身近なみどりを充実させる - 身近な公園が不足している地域では、市民緑地制度や立体都市公園制度、既存公園の充実など、新たな制度の活用を含め誰もが気軽に立ち寄れる憩いの空間づくりを目指します。 - 都市計画道路等の整備により、安全で歩くことが楽しくなるような「みどりのネットワーク」の形成を目指します。 - 雨水浸透や生物多様性の保全に貢献するまちなかの農地の保全を推進します。 - 黒目川・新河岸川を中心とした自然環境を保全・活用する - 公園が不足する本地域においては黒目川と新河岸川は貴重なみどりの空間です。保全活動の支援を図るとともに自然観察会やみどりの空間を活用したイベント開催などを通じて、市民が地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深める機会を創出していきます。 - 黒目川沿いの田園景観は、身近な農とのふれあい空間として貴重であるため、次世代に継承していくための保全活動を支援します。 - 新河岸川の周辺の樹林地、農業景観を一体的なものとして捉え、その豊かな自然環境を次世代に継承していくための保全活動を支援します。 - 持続可能な都市環境を築く - 駅前広場や公共空間の整備においては、人中心のウォーカブルな空間整備や交流の場との整備を推進します。 - ヒートアイランド現象の緩和や地下水涵養などグリーンインフラの視点を取り入れた都市緑化を目指します。 - ナラ枯れなどの課題を抱える樹林地については、専門家や市民と連携しながら、将来にわたって健全な状態を維持できるような管理のあり方を探求します。

	【主要な課題】	【主要な取り組み】
東部地域	《農地や斜面林と調和したまちづくり》宅地化が進む中で、崖線(がけせん)のみどりや田園風景といった、この地域ならではの景観をいかにして守り、まちづくりと両立させるかが大きな課題です。 《都市環境の保全》宅地化が進む中で、みどりが持つ環境調整機能(地下水涵養や水害抑制、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全など)を維持していく必要があります。 《みどりのネットワークの形成》点在する公園や緑地を、快適な遊歩道でつなぎ、まち歩きを楽しめるような「みどりのネットワーク」を作ることが求められています。 《中心市街地における憩いの空間の創出》人口が集中する朝霞駅周辺は、公園が不足しており、こどもたちの遊び場や多世代が交流できるオープンスペースの確保が求められます。一方で身近な公園整備が進められており、公園を核としたコミュニティ活動の促進も求められます。 《防災機能の強化》身近な防災拠点となる公園について仲町から根岸台1丁目・5丁目・6丁目付近において不足しています。	①景観資産を保全し、まちの安全性と魅力を高める - 良好な住環境の形成の寄与する崖線のみどりや農地などの景観を保全していくため、市民や民間事業者へその重要性を働きかけていきます。 - 崖線部には良好な自然環境を象徴する湧水が多く残されており、地下水の浸透起源となる台地面の浸透能の保全を図ります。農地や樹林地の保全に加え、開発地には雨水を一時的に貯留・浸透させる仕組みづくりなどを通じて、湧水の保全と都市型水害のリスク軽減に繋がる取り組みを推進します。 - 旧高橋家住宅などの地域のみどりと一体となった歴史文化資源の保全を図ります。また、地域の歴史や文化を感じられる資産を巡るトレイルコースなどを充実させ、市民が地域の魅力にふれ、誇りを持てるような機会を増やしていきます。 ②暮らしを支える身近なみどりを創出する - 身近な公園が不足している駅周辺の地域では、市民緑地制度や立体都市公園制度、既存公園の充実など、新たな制度の活用を含め誰もが気軽に立ち寄れる憩いの空間づくりを目指します。 - 民間開発と連携したオープンスペースの確保などを検討します。 - ヒートアイランド現象の緩和や地下水涵養などグリーンインフラの視点を取り入れた都市緑化を目指します。 ③みどりのある暮らしの実践 - 本地域にある農地や樹林地、歴史文化資源が身近であることから、農体験や自然学習などの機会の充実を目指します。 - 地産地消の推進や公園サポーターへの参加、自宅などの緑化活動など、みどりを楽しむ暮らしの実践に向けた取り組みを推進します。
西部地域	《都市基盤としての「グリーンインフラ」の拡充》建物や道路など、水が浸透しにくい地面が多いため、大雨の際に雨水が一気に流れ出すリスクがあるほか、ヒートアイランド現象が顕著です。みどりを増やし、都市の基盤(インフラ)として機能させる「グリーンインフラ」の考え方が特に重要になります。 《身近な公園の不足》住民のみどりや公園に対する満足度が低く、公園の数と質の両面からの改善が求められています。特に三原や東弁財エリアでは公園が不足しており、身近な公園の設置を望む声が非常に強いです。 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》駅から離れた地域では歩道が十分に整備されておらず、安全な歩行空間の確保が課題です。 《黒目川の保全と活用》朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を保全しながら、魅力を高め次世代に継承していくことが求められます。 《防災機能の強化》身近な防災拠点となる公園が不足しており、特に三原などで顕著です。 《市民参加の促進》清掃活動などの緑化活動への参加経験がある住民が少ない傾向があります。みどりへの愛着を育み、市民が主体となったまちづくりを進めるためのきっかけ作りが必要です。	① グリーンインフラで都市の環境機能を向上させる - ヒートアイランド現象の緩和や地下水涵養などグリーンインフラの視点を取り入れた都市緑化を目指します。 - 公園や公共施設などにおいて、雨水を浸透させる機能の充実を図るとともに、民間においても開発時の指導において雨水浸透貯留施設の設置などグリーンインフラを踏まえた取り組みを促進します。 ② 暮らしを支える身近なみどりを創出する・育てる - 本地域は、身近な公園が不足しているため、市民緑地制度や既存公園の充実など新たな制度の活用を含め、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの空間づくりを目指します。 - 都市計画道路の整備において、歩道や街路樹の充実を図り、誰もが安全で快適な歩きとなるまちづくりを目指します。 ③ 市民協働でみどりを育む文化を醸成する - 公園が不足する本地域においては黒目川は貴重なみどりの空間です。保全活動の支援を図るとともに自然観察会やみどりの空間を活用したイベント開催などを通じて、市民が地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深める機会を創出していきます。 - 市民が主体となった公園の清掃活動や花壇づくりなどを支援し、協働による維持管理の輪を広げていきます。 - 緑化活動に関心のある人が集い、楽しく学べるワークショップなどの機会を提供し、地域コミュニティの活性化を図ります。

	【主要な課題】	【主要な取り組み】
南部地域	1. 《大規模緑地の保全と機能維持》 基地跡地などの大規模な緑地は、都市の気温上昇を抑え、二酸化炭素(CO₂)の吸収源となる、まさに「都市の肺」のような存在です。この貴重な環境を適切に管理し、その機能を維持していくことが不可欠です。 2. 《みどりの偏在の是正》 基地跡地などに大規模な公園が集中している一方で、その他の住宅地では身近な公園が不足しており、みどりの配置に偏りが見られます。 3. 《みどりのネットワークの形成》 市民からは「みどり豊かで安全な歩道」を望む声が多くなっています。本町や溝沼エリアでは誰もが安心して歩ける道の整備が求められています。 4. 《都市基盤としての「グリーンインフラ」の拡充、都市環境の維持》 基地跡地などまとまった緑地以外は建物や道路など、水が浸透しにくい地面が多いため、それらの地域では大雨の際に雨水が一気に流れ出すリスクがあり、ヒートアイランド現象が顕著です。みどりを増やし、都市の基盤(インフラ)として機能させる「グリーンインフラ」の考え方が特に重要になります。 5. 《コミュニティの場の形成》 大規模な公園以外に、地域住民が気軽に集えるようなオープンスペースが少なく、コミュニティ活性化の観点からも課題となっています。 6. 《樹林地の保全》 樹林地は貴重な自然環境であることから、樹林地を残すとともに、持続性のある樹林地管理が求められます。	① 大規模緑地を保全し、その価値を高める a. 基地跡地などの貴重な緑地は、朝霞のまちなかのグリーンインフラの要として、公園整備の推進やみどりの多面的機能の保全を図ります。 b. 朝霞の森周辺では、貴重なみどりを環境学習やにぎわいの場として活用するなど、その価値を多くの市民と共有し、未来へ継承していくための取り組みを進めます。 ② みどりの恵みを地域全体に行き渡らせる a. 公園が不足している住宅地において、計画的なオープンスペースの確保を検討し、みどりの配置の偏り是正を目指します。 b. 駅周辺地域では、人中心のウォーカブルな空間整備を進めるとともに、大規模緑地と住宅地をみどり豊かな歩道などでつなぎ、誰もが安全にみどりの恵みへアクセスできるネットワークの形成を目指します。緑のネットワークの充実においては、まちなかベンチやポケットパークなど休息機能や滞留機能を持つ空間の充実を図ります。 ③ グリーンインフラにより暮らしの安全と快適性を向上させる a. 本地域には公共施設が多く分布しており、地域の健全な水循環やヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全等に貢献していることから、引き続きグリーンインフラの視点に配慮した環境の維持を促進します。 b. 民有地では、農地や樹林地の保全のほか、開発時の緑化や雨水浸透貯留施設の設置を促進します。また、みどりのカーテンの普及などを通じて夏の暑さを和らげるとともに、小さなオープンスペースを創出し、コミュニティの活性化にも繋がるような取り組みを支援します。 c. これらの取り組みにより、都市型水害の防止や湧水の保全、ヒートアイランド現象の緩和を目指します。